

2024年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年1月10日

上場会社名 株式会社コシダカホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 2157 URL <http://www.koshidakaholdings.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 腰高 博
 問合せ先責任者(役職名) 専務取締役 (氏名) 土井 義人 (TEL) 0570-666-425
 四半期報告書提出予定日 2024年1月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年8月期第1四半期の連結業績(2023年9月1日~2023年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第1四半期	13,182	16.9	573	7.3	1,021	90.5	787	140.8
2023年8月期第1四半期	11,278	77.0	534	—	535	—	327	—

(注) 包括利益 2024年8月期第1四半期 742百万円(67.7%) 2023年8月期第1四半期 442百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年8月期第1四半期	9.66	8.83
2023年8月期第1四半期	4.01	3.69

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年8月期第1四半期	54,543	25,566	46.9
2023年8月期	57,007	25,394	44.5

(参考) 自己資本 2024年8月期第1四半期 25,557百万円 2023年8月期 25,385百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年8月期	—	5.00	—	7.00	12.00
2024年8月期	—	—	—	—	—
2024年8月期(予想)	—	7.00	—	7.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年8月期の連結業績予想(2023年9月1日~2024年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	29,826	16.5	4,561	29.4	4,514	22.5	2,934	17.4	35.99
通期	61,976	13.4	9,004	17.4	8,910	14.7	5,791	△18.5	71.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 一 、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年8月期1Q	82,300,000株	2023年8月期	82,300,000株
② 期末自己株式数	2024年8月期1Q	767,376株	2023年8月期	767,376株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年8月期1Q	81,532,624株	2023年8月期1Q	81,532,694株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信【添付資料】P. 4「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	11
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、ロシアによるウクライナ侵攻とその反撃の長期化に加え、中東においてもイスラエル・ハマス間の戦闘が勃発、短期的出口が見通しづらい状況下、食料・エネルギーの供給面での不透明感が継続する中、為替市場では日米両金融当局の方針変更のタイミングを覗いつつ円は最近の最安値から若干戻した水準で当四半期を終えており、ウクライナやイスラエルにおける戦争、食料・エネルギーの供給不足、円安等の不安定要素が長期化の様相を呈している状況となっております。

各セグメントの業績は次のとおりとなりますが、当第1四半期連結会計期間より、温浴事業セグメントについては、同セグメントの主要施設である東京健康ランドまねきの湯閉店に伴う温浴事業の規模縮小により、その他事業セグメントの一部としました。また、従来カラオケ事業セグメントに区分されていたカラオケサービスを提供していない純飲食店である銀だこハイボール4店舗、カフェクラ1店舗及び新業態のカノップ2店舗についても、その他事業セグメントに集約する形としました。

以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(カラオケ)

主力のカラオケ事業では、コロナ禍中も積極出店を継続してきた当社としては、競合に先んじてリベンジ消費を特に東京都心の繁華街地域において先行して取り込んでまいりましたが、徐々に地方においてもリベンジ消費が広がってきております。一方、昨年末以降価格の適正化も行いましたが、需要、競合状況に応じて順次調整を行ってきております。これらの結果、計画に対しては客数は上回り、客単価では下回るという結果となりました。また、当第1四半期連結累計期間も、最需要期の年末年始商戦に向け、積極の出店を継続し、12店舗（カラオケまねきねこ12店舗）を開設した他、既存店の機器・設備等の改善に取り組みました。

また、中期経営ビジョン「エンタメをインフラに」の実現に向け、カラオケ以外のエンターテインメントの提供、コンテンツコラボの積極的展開、採用・教育体制の拡充を進めた他、新規エンターテインメント及び各種業務効率化に向けたDX施策の開発・導入準備を進め、新たなPERアクティビティとして「ONEREC VK」を一部店舗にてテスト導入しております。組織体制の強化の一環として給与水準の引き上げを含む人事制度の刷新（Workstyle Innovation Plan）も行っております。

海外においても前期から再開している東南アジアでの新規出店を継続し、マレーシアに2店舗、タイ、インドネシアに各1店舗のカラオケまねきねこをオープンいたしました。

当第1四半期連結累計期間末のカラオケセグメントの国内店舗数は、前連結会計年度末比12店舗増加し632店舗、海外店舗数は同4店舗増の4か国21店舗（韓国4店舗、マレーシア12店舗、タイ3店舗、インドネシア2店舗）となりました。

以上の結果、カラオケセグメントの売上高は127億7百万円（前年同期比19.3%増）、セグメント利益は10億円（同25.0%増）となりました。

(不動産管理)

主要物件である「アクエル前橋」、「フルーレ花咲ビル」ともほぼ満床にて推移いたしました。一方、前第3四半期連結会計期間において自社物件「スポーツ名古屋」を譲渡したことから、該当収益がなくなったこと、また新規取得案件の経費などが発生しております。

以上の結果、不動産管理セグメントの売上高は3億32百万円（前年同期比3.7%減）、セグメント損失は3百万円（赤字化）となりました。

(その他)

当第1四半期連結累計期間に「東京健康ランドまねきの湯」を閉店したことから該当収益がなくなっております。一方カラオケ事業からその他事業にセグメント移動をした飲食店舗5店舗の収益は改善しております。

以上の結果、その他セグメントの売上高は2億8百万円（前年同期比38.2%減）、セグメント損失は60百万円（赤字額拡大）となりました。

以上により、当第1四半期連結累計期間の当社グループ（当社及び連結子会社）の経営成績は、以下の通りとなりました。

売上高 131億82百万円（前年同期比16.9%増）

営業利益 5億73百万円（前年同期比7.3%増）

経常利益 10億21百万円（前年同期比90.5%増）

親会社株主に帰属する四半期純利益 7億87百万円（前年同期比140.8%増）

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債、純資産の状況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ41億31百万円減少し82億43百万円(同比33.4%減)となりました。これは主に、法人税等の支払及び配当金の支払等により、現金及び預金が44億44百万円減少したことなどによるものです。

有形固定資産は12億2百万円増加し、332億34百万円(同比3.8%増)となりました。これは主に、新規出店に伴い建物及び構築物(純額)が9億93百万円増加したことなどによるものです。

無形固定資産は29百万円増加し5億40百万円(同比5.8%増)となりました。

投資その他の資産は4億35百万円増加し、125億25百万円(同比3.6%増)となりました。これは主に、新規出店に伴い敷金及び保証金が3億68百万円増加したことなどによるものです。

固定資産の総額は、16億66百万円増加し463億円(同比3.7%増)となりました。

この結果、当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ24億64百万円減少し、545億43百万円(同比4.3%減)となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ27億36百万円減少し、112億27百万円(同比19.6%減)となりました。これは主に、未払法人税等が19億43百万円、その他の流動負債が6億97百万円減少したことなどによるものです。

固定負債は1億円増加し、177億49百万円(同比0.6%増)となりました。これは主に、長期借入金が65百万円減少した一方、資産除去債務が2億6百万円増加したことなどによるものです。

この結果、当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、26億36百万円減少し、289億77百万円(同比8.3%減)となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ1億72百万円増加し、255億66百万円(同比0.7%増)となりました。これは主に、利益剰余金が2億16百万円増加したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しについては、ウクライナ戦争の長期化に加え、パレスチナガザ地区におけるイスラエル・ハマスの紛争も周辺のその他反イスラエル勢力の活動活発化もあり短期収束が見通しづらく、これらに伴うエネルギー・食料品等の供給不足からくる価格高騰、不動産不況から懸念される中国経済の失速懸念など世界的な不安定要素は継続する様相ですが、国内においてはコロナ禍からの「リベンジ消費」が全国的に見られるようになり、ここ数年来で初めての「通常」の年末年始商戦を迎えることができました。

期初予想の段階で、リベンジ消費の顕在化を想定しておりましたので、2024年8月期通期の連結業績につきましては、期初の予想を維持し、売上高619億76百万円（前連結会計年度比13.4%増）、営業利益90億4百万円（同17.4%増）、経常利益89億10百万円（同14.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益57億91百万円（同18.5%減）を見込んでおります。

また、当社では従来より中期経営ビジョン「エンタメをインフラに」（Entertainment Infrastructure Plan）を掲げ、①店舗網の拡充とカラオケルーム数の拡大、②各種エンターテインメントの提供、③人財の採用と育成の3点を重点課題と位置づけ、「高度人財の積極的な採用と持続的な成長を維持しうる組織体制づくり」、「PER（Private Entertainment Room）を拡充するための、DXソリューションを活用しリアル・デジタルを融合させた、“場所・空間の制約を超えたエンタメ体験価値”の創造による、既存のカラオケにとらわれない新たな顧客体験の創出」、「エンタメと健康増進（ウェルネス）を両立させた、ウェルティンメント追求型の新業態開発」、の3点を重要施策と位置付け、企業価値向上に向けて各種施策を推進しておりますが、当期におきましても各種業務効率化施策の他、新たなPERアクティビティとしての「メタカラ」「ONEREC VK」の導入など、具体的なDX施策の導入を進めております。

なお、当該業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,437,076	3,992,934
受取手形及び売掛金	947,213	851,759
商品	169,363	172,715
原材料及び貯蔵品	384,959	371,284
その他	2,438,031	2,856,956
貸倒引当金	△2,575	△2,589
流動資産合計	12,374,069	8,243,060
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	22,587,377	23,581,334
車両運搬具及び工具器具備品（純額）	2,792,752	2,892,521
土地	6,627,123	6,627,123
建設仮勘定	25,029	133,782
有形固定資産合計	32,032,282	33,234,761
無形固定資産		
のれん	1,290	734
ソフトウェア	364,271	372,481
その他	145,345	167,138
無形固定資産合計	510,907	540,355
投資その他の資産		
投資有価証券	288,714	305,412
関係会社株式	10,404	184,062
長期貸付金	2,205,026	2,116,225
長期前払費用	603,846	590,541
敷金及び保証金	7,507,557	7,876,521
繰延税金資産	2,068,785	1,932,750
その他	151,916	151,843
貸倒引当金	△745,706	△631,780
投資その他の資産合計	12,090,543	12,525,577
固定資産合計	44,633,733	46,300,693
資産合計	57,007,803	54,543,753

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	644,739	653,607
1年内返済予定の長期借入金	1,911,240	1,993,240
未払金	2,785,751	2,818,679
未払費用	1,610,478	1,568,343
未払法人税等	2,262,994	319,803
賞与引当金	347,162	178,476
預り金	263,142	254,183
その他	4,138,895	3,441,162
流動負債合計	13,964,404	11,227,496
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	4,000,000	4,000,000
長期借入金	6,937,210	6,871,900
繰延税金負債	690,852	655,925
資産除去債務	5,137,733	5,343,894
その他	883,089	877,981
固定負債合計	17,648,884	17,749,700
負債合計	31,613,289	28,977,196
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,070,257	2,070,257
資本剰余金	3,302,786	3,302,786
利益剰余金	20,455,244	20,672,112
自己株式	△105,741	△105,741
株主資本合計	25,722,546	25,939,414
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	47,576	52,540
為替換算調整勘定	△384,231	△434,020
その他の包括利益累計額合計	△336,654	△381,480
新株予約権	8,622	8,622
純資産合計	25,394,514	25,566,556
負債純資産合計	57,007,803	54,543,753

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)
売上高	11,278,683	13,182,967
売上原価	9,427,090	11,031,857
売上総利益	1,851,592	2,151,110
販売費及び一般管理費	1,317,417	1,577,877
営業利益	534,175	573,233
営業外収益		
受取利息及び配当金	8,069	2,543
為替差益	28,336	155,318
解約金収入	—	221,477
その他	33,928	124,111
営業外収益合計	70,335	503,450
営業外費用		
支払利息	9,130	8,092
貸倒引当金繰入額	57,186	2,318
支払家賃	—	34,632
その他	2,220	10,399
営業外費用合計	68,537	55,443
経常利益	535,972	1,021,241
特別利益		
固定資産売却益	296	—
特別利益合計	296	—
特別損失		
固定資産除却損	12,406	4,674
減損損失	—	37,018
特別損失合計	12,406	41,692
税金等調整前四半期純利益	523,863	979,548
法人税、住民税及び事業税	39,078	93,033
法人税等調整額	157,719	98,917
法人税等合計	196,797	191,951
四半期純利益	327,065	787,596
親会社株主に帰属する四半期純利益	327,065	787,596

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)
四半期純利益	327,065	787,596
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,418	4,963
為替換算調整勘定	112,315	△49,789
その他の包括利益合計	115,733	△44,825
四半期包括利益	442,798	742,770
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	442,798	742,770

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	カラオケ	不動産管理	その他			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	10,650,505	752	338,224	10,989,482	—	10,989,482
その他の収益	—	289,200	—	289,200	—	289,200
外部顧客への売上高	10,650,505	289,953	338,224	11,278,683	—	11,278,683
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	55,686	—	55,686	△55,686	—
計	10,650,505	345,640	338,224	11,334,370	△55,686	11,278,683
セグメント利益又は損失(△)	801,041	81,042	△23,945	858,138	△323,963	534,175

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△323,963千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産に係る重要な減損損失及びのれん等の重要な変動について、該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	カラオケ	不動産管理	その他			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	12,707,332	64,599	208,964	12,980,895	—	12,980,895
その他の収益	—	202,071	—	202,071	—	202,071
外部顧客への売上高	12,707,332	266,671	208,964	13,182,967	—	13,182,967
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	66,266	—	66,266	△66,266	—
計	12,707,332	332,938	208,964	13,249,234	△66,266	13,182,967
セグメント利益又は損失(△)	1,000,933	△3,049	△60,687	937,196	△363,962	573,233

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△363,962千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産に係る重要な減損損失及びのれん等の重要な変動について、該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、中期経営ビジョンで掲げている戦略施策を加速・強化すること、また資源配分に係る意思決定、業績管理及びシナジー効果等の評価を適切に行うために、事業活動の実態を適切に表すよう経営管理区分の見直しを行い、温浴事業セグメントについては、同セグメントの主要施設である東京健康ランドまねきの湯を2023年9月3日にて閉館したことにより、金額的重要性が乏しくなったこと踏まえ「その他事業」とすること、カラオケ事業セグメントについても、同セグメントに含まれているその他業態の店舗(注)1を「その他事業」に集約、変更することと致しました。

また前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(注) 1. カラオケ事業に含まれているその他業態の店舗: 銀だこハイボール、カノップ、カフェエクラ

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。